

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年前期	2	2	選択
担当教員			
上藤 一郎			
添付ファイル			

講義概要	さまざまな経済問題を理解し分析するには経済理論とデータによる実証が不可欠です。そこで、この講義では、まず経済学の基礎理論と経済データを前提とした統計分析の方法を学びます。続いて、そこで学んだ知識を実際の経済分析に応用する力を身に付けるため、日本経済及び静岡経済の過去と現在を理論と実証の双方から読み解きます。なおその際、財政制度や金融の仕組み、国際経済の動向などについても必要に応じて取り上げます。最終的には、日本経済や静岡経済の将来動向を自分自身で考え理解できるようになることがこの講義の主要な目標となります。
授業計画	<p>1 経済学の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・ミクロ経済学とマクロ経済学の基本事項 <p>2 日本経済の歩み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1950年代から現在までの日本経済の動向 <p>3 静岡経済の歩み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1950年代から現在までの静岡県の経済動向 <p>4 経済データの見方・使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民経済計算と県民経済計算 ・人口統計と労働統計 <p>5 ミクロ経済理論と市場のメカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計の消費行動 ・企業の生産行動 ・市場価格の決定 <p>6 マクロ経済理論と経済政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民所得の決定 ・乗数の理論 ・財政政策と金融政策 <p>7 需要主導型モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済モデルと地域分析 ・乗数効果 <p>8 供給主導型モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産関数 ・経済成長モデルと人口 <p>9 基盤産業の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特化係数 ・就業構造から見た基盤産業 ・生産額から見た基盤産業 <p>10 地域経済と産業構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シフト・シェア分析 <p>11 労働移動の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働移動から見た経済圏の統計的分類 ・重力モデルによる労働移動の分析 <p>12 経済波及効果の計測</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業連関表 ・産業連関分析 <p>13 日本の財政制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳出と歳入 ・租税と公債 ・地方財政 <p>14 日本の金融市場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貨幣の役割 ・中央銀行の役割 <p>15 国際経済の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際収支表の見方・使い方 ・国際貿易と日本経済 <p>16 定期試験</p>
授業形態	講義 アクティブラーニング：①1回、②1回、③0回、④1回、⑤0回、⑥1回

達成目標	1. 経済学的なものの方・考え方を理解する。 2. 経済現象を経済理論に基づいて適切に読み解くための力を身に付ける。 3. 経済分析に必要な経済データとデータ解析の方法を理解する。 4. 上記 1 と 2 で学んだ知識を実際の経済問題の分析に応用する力を身に付ける。 5. 日本経済及び静岡経済の現状を理解し、データに基づいた将来予測の力を身に付ける。
評価方法・フィードバック	中間課題 40%，期末テスト 50%，演習点 10% で成績評価します。詳しくは開講時に指示します。
評価基準	秀：100～90（達成目標 5 項目を完了した場合），優：89～80（同 4 項目を完了した場合），良 79～70（同 3 項目を完了すること），可：69～60（同 2 項目を完了すること），不可：59 以下
教科書・参考書	教科書：山下隆之編著『地域経済分析ハンドブック』晃洋書房，2016年。 その他の参考資料は講義中に指示します。
履修条件	とくにありません。
履修上の注意	とくにありません。
準備学習と課題の内容	予習…テキストを読むこと。 復習…2時間程度を目安として復習し、授業内容を正しく理解すること。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解20%，思考・判断30%，関心・意欲20%，態度10%，技能・表現20%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	